

[解答例]

英語〔前期A方式(1/29)〕

設問	解答例
I	① 2
	② 3
	③ 3
	④ 1
	⑤ 1
	⑥ 3
II	⑦ 4
	⑧ 1
	⑨ 3
	⑩ 3
	⑪ 2
	⑫ 4
	⑬ 3
	⑭ 2
	⑮ 1
	⑯ 3
	⑰ 2
III	⑱ 6
	⑲ 7
	⑳ 4
	㉑ 1
	㉒ 5
	㉓ 2
	㉔ 8
	㉕ 3
	IV
㉗ 4	
㉘ 3	
㉙ 2	
㉚ 1	
㉛ 3	
㉜ 4	
㉝ 3	
㉞ 3	
㉟ 4	
V	㊱ 1
	㊲ 7
	㊳ 7
	㊴ 6
	㊵ 4
	㊶ 3
	㊷ 6
	㊸ 4
	㊹ 2
	㊺ 3

英語〔前期B方式(1/30)〕

設問	解答例
I	① 2
	② 2
	③ 2
	④ 1
	⑤ 3
	⑥ 3
II	⑦ 2
	⑧ 4
	⑨ 1
	⑩ 5
	⑪ 3
	⑫ 7
	⑬ 2
	⑭ 5
	⑮ 6
	⑯ 3
	⑰ 4
	⑱ 1
III	⑲ 1
	⑳ 8
	㉑ 2
	㉒ 7
	㉓ 7
	㉔ 7
	㉕ 6
	㉖ 1
	㉗ 5
	㉘ 7
IV	㉙ 1
	㉚ 3
	㉛ 2
	㉜ 4
	㉝ 4
	㉞ 1
	㉟ 3
	㊱ 3
	㊲ 1
	㊳ 3
㊴ 1	
㊵ 2	

英語〔中期(2/16)〕

設問	解答例
I	① 3
	② 1
	③ 2
	④ 2
	⑤ 3
	⑥ 1
II	⑦ 3
	⑧ 2
	⑨ 5
	⑩ 1
	⑪ 4
	⑫ 7
	⑬ 6
	⑭ 4
	⑮ 5
	⑯ 1
	⑰ 2
	⑱ 3
III	⑲ 3
	⑳ 5
	㉑ 7
	㉒ 4
	㉓ 5
	㉔ 3
	㉕ 4
	㉖ 3
	㉗ 5
	㉘ 2
㉙ 4	
㉚ 8	
IV	㉛ 1
	㉜ 4
	㉝ 1
	㉞ 3
	㉟ 2
	㊱ 1
	㊲ 3
	㊳ 1
	㊴ 2
	㊵ 4
㊶ 1	

英語〔後期(3/8)〕

設問	解答例
I	① 1
	② 3
	③ 3
	④ 1
	⑤ 2
	⑥ 1
II	⑦ 4
	⑧ 2
	⑨ 4
	⑩ 3
	⑪ 3
	⑫ 3
	⑬ 1
	⑭ 3
	⑮ 4
	⑯ 3
III	⑰ 6
	⑱ 7
	⑲ 1
	⑳ 3
	㉑ 4
IV	㉒ 2
	㉓ 8
	㉔ 5
	㉕ 4
	㉖ 4
	㉗ 3
	㉘ 3
	㉙ 4
V	㉚ 1
	㉛ 8
	㉜ 5
	㉝ 6
	㉞ 7
	㉟ 6
	㊱ 4
	㊲ 3
㊳ 3	
㊴ 2	

【解説】

英語〔前期 A 方式 1 / 29〕

I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「各国における言語改革」。

ほぼ本文の流れに沿って出題されている。キーワードを本文中から見つけ出してその前後を正確に読み取り、各設問で与えられている英語に続く最も適当な答えを3つの選択肢から選ぶ。(1)は第1段落第2文、(2)は第3段落、(3)は第3段落第5文、(4)は第4段落第3文、(5)は第4段落第4文、(6)は第4段落第6文を照合する。

II

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「リチャード・パートンの生涯」。

(1)・(2)・(4)・(5)・(8) 本文中の語句の説明や、記述の内容としてふさわしい、またはふさわしくない選択肢を選ぶ問題。

(3)・(6)・(7) 空所を補う問題や、下線部について同義になる選択肢を選ぶ問題。空所や下線部の前後の文脈も正確に理解しているかが問われている。

(9)は内容把握の問題。本文第2～10段落ではパートンの生涯が時系列順に述べられており、aは第2段落、bは第3段落、cは第8段落、dは第7段落が該当する。

したがって、a→b→d→cの順番が正しい。

(10)内容一致問題。それぞれの設問や選択肢で与えられている英文をもとに、キーワードを本文中から見つけ出してその前後を正確に読み取り、適切な選択肢を選ぶ。1.は第10段落第4文、2.は第11段落第4文を照合する。

III

会話文の空所補充問題。学生3人が映画化された小説について話している場面。会話全体の文脈を押さえたうえで、空所の前後を丁寧に読み取って、会話の流れに沿った1文を選択すること。

IV

標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。

(1) if any は量について「もしあるとしても」の意。if ever も「もし

あるとしても」という意味だが、こちらは頻度を表すことに注意。

- (2) 〈allow + O + to do〉で「Oが～することを許す」の意。
- (3) 「ルーシーが去る前に彼女と()、しかし私はしなかった」という文。空所には〈should have + 過去分詞〉「～すべきだった」という過去のことに関する義務の表現を用いると文意が通る。
- (4) how to get to を入れると「大学の寮への行き方」となり、文意が通る。動詞 arrive には前置詞が必要。「～への道」と言う場合は the way to ～で表す。
- (5) 〈as if + 仮定法過去〉で「まるで～のように」の意。
- (6) There is no telling what ～. は「何が～なのかかわからない」という意味の慣用表現。
- (7) 過去分詞の分詞構文が挿入された文にする。分詞構文の意味上の主語は、文の主語と同じ a bad habit。
- (8) 空所のあとには文の要素が揃った完全な文が続いているので、関係副詞の where を入れる。
- (9) no less than ～で「～ほども多くの」の意。as much as は数えられない名詞を続ける。not so much は not so much A as B の形で「AというよりむしろB」の意。
- (10) If で文が始まり、過去完了が続いているので、仮定法の文。主節の述語動詞は〈助動詞の過去形 + 動詞の原形〉の形にする。if 節は過去完了で過去の事実と反することを表しているが、主節は現在の事実と反することを述べている。

V

正しい語順は次の通り。

- (1) We should (vote for a candidate who we believe is) reliable.
- (2) The doctor (advised her to refrain from staying up late) at night.
- (3) I will (see to it that everything is ready for) the upcoming conference.
- (4) Kevin (wants to make a living in agriculture after) he retires.
- (5) Bicycles (are more beneficial to the environment than motor) vehicles.

英語〔前期 B 方式 1 / 30〕

I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「秋のラップランドでのオーロラ鑑賞」。

ほぼ本文の流れに沿って出題されている。(1)・(2)・(3)・(5)・(6)はキーワードを本文中から見つけ出してその前後を正確に読み取り、各設問で与えられている英語に続く最も適当な答えを3つの選択肢から選ぶ問題。(1)は第2段落、(2)は第3段落第1文、(3)は第5段落第1文、(5)は第9段落第3、4文を照合する。(6)は文章全体の要旨を読み取って答える。

(4)は下線部の語の意味を問う問題。語彙力や文脈から意味を推測できるかが問われている。

II

会話文の空所補充問題。PART 1 と PART 2 はひと続きの内容である。Carl と Liv がお金や物の貸し借りについて話している場面。会話全体の文脈を押さえたうえで、空所の前後を丁寧に読み取って、会話の流れに沿った1文を選択すること。

III

正しい語順は次の通り。

- (1) Do you (think that cash is likely to disappear some) day?
- (2) Nancy found (her hometown different from what it had been) ten years before.
- (3) Her (house commands the finest view that I have) ever seen.
- (4) Ms. Jones (used to be in charge of this local) sales area.
- (5) The lecturer spoke (so quickly that I could not write down) everything he said.
- (6) Those (who are suffering from hunger need urgent help).

IV

標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。

- (1) 〈another + 数詞 + 名詞の複数形〉で「さらに～、もう～」の意。
- (2) 時を表す副詞節 (by the time ～) の中では、未来のことでも動詞は現在形を用いる。
- (3) would rather not do で「～したくない」の意。
- (4) 〈cause + O + to do〉で「Oに～させる」の意。
- (5) 〈It is time + 仮定法過去～〉で「～してもよいころだ」の意。It is about time for good children to go to bed. と言い換えることもできる。
- (6) it は形式目的語で、that 以下の内容が hear の真目的語。「(that 以下が)～されるのを聞く」と受動的な意味にすると文意が通るので、〈hear + O + 過去分詞〉の形にする。
- (7) 空所のあとには visit の目的語が欠けているので、関係代名詞を選ぶ。visit は他動詞なので、関係代名詞の前に前置詞は不要。
- (8) except that ～「～ということ以外は」を入れると文意が通る。
- (9) 「定時の1時間前に全ての仕事を終えた()、彼は早く帰ることに決めた」という文。理由を表す分詞構文を入れると文意が通る。
- (10) such A that ～で「非常にAなので～」の意。
- (11) 複合関係代名詞の whatever を用いる。〈whatever + 名詞〉で「どんな～が[を]…しようとも」の意。

英語〔中期 2/16〕

I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「社会規範の4つのタイプ」。

ほぼ本文の流れに沿って出題されている。キーワードを本文中から見つけ出してその前後を正確に読み取り、各設問で与えられている英語に続く最も適当な答えを3つの選択肢から選ぶ。(2)は第2段落第2文、(3)は第2段落第4文、(4)は第3段落第1文、(5)は第4段落第1～2文、(6)は第2段落第7文を照合する。

II

会話文の空所補充問題。PART 1とPART 2はひと続きの内容である。RickとTinaが自分たちの家族内のエピソードを話している場面。2人の関係と会話全体の文脈を押さえたうえで、空所の前後を丁寧に読み取って、会話の流れに沿った1文を選択すること。

III

正しい語順は次の通り。

- (1) You should (make the most of your precious time at) college.
- (2) All (you have to do is get dressed for) the party tonight.
- (3) I (would appreciate it if you could agree to) my plan.
- (4) Johnny (was absorbed in reading the comic book while) lying down on the sofa.
- (5) Mary (has no idea how to get along with) her neighbors.
- (6) Little (did I dream of seeing you at a) place like this.

英語〔後期 3/8〕

I

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「テクノロジーの発展の弊害」。

昨年に引き続き、試験の時間設定が全体で前期A方式より短く、設問数は昨年と同じである。したがって、スピーディーに解答を出す力が要求される。前期・中期日程と同様、ほぼ本文の流れに沿って出題されており、キーワードを本文中から見つけ出してその前後を正確に読み取り、各設問で与えられている英語に続く最も適当な答えを3つの選択肢から選ぶ。(1)は第1段落第1文、(2)は第3段落第2～3文、(3)は第5段落第7文、(4)は第6段落第3文、(5)は第8段落第7～8文、(6)は第9段落第2文を照合する。

II

文脈把握を中心とする長文読解問題。テーマは「赤色の持つ文化的意味」。

前期A方式と同様、下線について、同義になる選択肢を選ぶ、その内容としてふさわしい選択肢を選ぶなど、文脈から判断する問題が中心である。下線部だけでなく、前後の文脈から意味を考え、選択肢と照合する力も求められている。

- (8) 内容一致問題。それぞれの選択肢ごとに、本文の異なる箇所を参照する。①は第2段落、②は第4段落、④は第6、7段落の内容と合わない。③は第3段落の内容と合うので、これが正解。
- (10) 問題文のタイトルをつける問題。タイトルは、その文章全体のテーマを示すものを選ぶ必要がある。正解は③。問題文で述べられている内容であっても、全体のテーマを示していないものはタイトルとしてふさわしくない。

III

会話文の空所補充問題。Rickがオーストラリアでのワーキングホリデーを控えたSuzieと話している場面で、主にSuzieのワーキングホリデーについてや、海外旅行の思い出についての会話。空所の前後を丁寧に読み取って、会話の流れに沿った1文を選択すること。

IV

標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。

- (1) hardly ~ before[when] ...で「～するかしないうちに…」の意。
- (2) if節の述語動詞が(had + 過去分詞)の形なので、仮定法過去完了の文とわかる。主節の述語動詞は〈助動詞の過去形 + have + 過去分詞〉の形にする。
- (3) choice はここでは「選択の自由、選択の余地」の意。
- (4) only to do で「ただ～するだけだった」の意。通例否定的な結果を表す。
- (5) speak to ~「～に話しかける」が受動態で用いられた文。
- (6) besides で「～に加えて」の意。in addition to ~もほぼ同じ意味を表す。
- (7) 主節の動詞 do の目的語となるのは、複合関係代名詞の whatever のみ。
- (8) 独立分詞構文。接続詞を使って As there is no bus service at that time of the day, ~. と書き換えられる。
- (9) It was ~ that ... の強調構文。
- (10) never ~ without doing で「…せずには～しない、～すれば必ず…する」の意。
- (11) 数量の大小は large, small で表す。

IV

標準レベルの文法・語法・熟語が問われている。

- (1) but for ~ は仮定法で「～がなければ、～がなかったら」の意。主節の空所には助動詞の過去形を含むものが適切。
- (2) until は否定文で「…まで～しない、…になって初めて～する」の意。文全体は強調構文で、強調しない元の文は I didn't receive your letter until this morning. となる。
- (3) What do you say to ~? で「～はいかがですか」の意。to のあとに動名詞(= 名詞相当句)が続くものが適切。
- (4) agree は自動詞なので、空所には関係副詞の where が適切。ここでは where = on which。
- (5) in that で「～という点で」の意。
- (6) still less で「まして(～でない)」の意。
- (7) 文意より、inferior to ~「～に劣っている」が適切。superior to ~は「～よりすぐれている」の意。
- (8) whatever は複合関係副詞で、「どんなものが～しようとも」と譲歩の副詞節を導く。

V

正しい語順は次の通り。

- (1) How (on earth can you keep yourself cool under) such circumstances?
- (2) I am just (wondering if it could be of any service) to Mary.
- (3) My (mother's hometown is about an hour's drive from) the city.
- (4) I (think you may as well join them at) once.
- (5) You don't know (what it is like to be quite alone) in the world.